

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2773500604		
法人名	社会福祉法人 長生会		
事業所名	グループホーム 美野の里		
所在地	大阪府南河内郡太子町山田2558番地		
自己評価作成日	平成27年3月17日	評価結果市町村受理日	平成27年6月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成27年4月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>大阪平野を一望できる場所に位置し、周辺は神社、古墳等が多数あって、穏やかに過ごすことが出来ます。施設内は家庭的な雰囲気を作り出すことに努めており、また、家族様を交えた夕食、誕生日会等を企画して家族様との時間も大切にしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業主体は、ホームと同一敷地内で、介護老人福祉施設、ケアハウス、通所・訪問介護、在宅介護支援センター、短期入所生活介護、ケアプランセンター、付属診療所等々を多角的に運営する、社会福祉法人 長生会である。ホームは、平成15年4月に、2階建ての、1階～2階部分に、2ユニットで開設された。ホームは、近くに飛鳥の里、聖徳太子ゆかりの地、二上山の山懐に在り、緑豊かな自然に囲まれ、PLの花火、富田林・羽曳野の街や遥か遠くにあべのハルカスも眺望できる。利用者は、四季折々の季節を味わいながらの生活がある。理念を「笑顔:笑いの絶えない、あたたかい場所にします。心:認知症や介護の理解を深め、安心して生活していただける場所にします。交流:地域に出かけ、気軽に足を運んでいただける場所にします」として、全職員が一体と成っての真摯な取り組みの実践が見ら</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念に加えて理念を掲げている。笑顔一笑いの絶えない、あたたかい場所にします 心一 認知症や介護の理解を深め、安心して生活していただける場所にします 交流一地域に出かけ、また、気軽に足を運んでいただける場所にします	法人理念を基本として、事業所独自の理念を創り、ホーム内の見易い処に理念を掲げ、職員の定期的な研修を行ない、職員の各自の名札の裏には理念を書いて、全職員への理念の意識づけをしている。理念の具現化のために、27年度目標は、健康、記憶、家族、共に、個々とし、とことんこだわるとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の神社に散歩にでかけたり、イベントで外出する機会を設けている。一方、地域の老人会や、ボランティア団体等の訪問や慰問も積極的に受け入れている	地域で開催される各種の催事(だんじり祭り、老人会、PL花火鑑賞、学園祭訪問)への参加・訪問、ボランティアとの楽しみながらのふれ合い(大正琴、あじさい会)、在宅介護支援センターの認知症講座等での交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町より委託の在宅介護支援センターの事業として地域の住民対象に認知症をテーマとして講座を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員全員参加は難しいが、活発な意見交換は出来ており、提案事項についても、前向きに検討し、サービスに活かせる努力をしている	平成26年は、年6回開催して、延べ30名の参加があった。参加者は、家族、老人クラブ代表、民生委員代表、地域包括支援センター職員、介護相談員、管理者、計画作成担当者等の参加で、双方向的な会議を実施した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	監督庁である太子町の担当職員とはコミュニケーションを密にして頻繁に情報交換を行っている	日頃から、高齢介護課の担当者との相談・情報交換・指導を受けながら協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議での協力・連携を図り、月1回は、2名の介護相談員の受け入れをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の居室の扉には、鍵をかけていない。施設玄関の出入口は、グループホーム入居者の特徴等を配慮して、電子キーを採用している。	職員は身体拘束をすることの弊害は理解している。身体拘束排除のマニュアルを作り、職員研修も実施している。玄関出入口は電子キーを採用しているが、利用者の出入りには即応体制をとり、見守りを重視している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム内の会議でテーマとして取り上げ職員に学ぶ機会を持っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	法人として社会貢献事業に参加しており、会議等で報告している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類の文字サイズを大きくしたり、その場で契約を迫ったりせず、十分に時間を作り、質問等を受けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各階に投書箱を設置し、そこに意見を入れて頂くようにしている。ご家族が面会に来られた際は出来る限り最近の様子などを話すようにしている。また、運営推進会議でご家族の意見等を聞くようにしている。	苦情相談窓口を設置して意見・苦情・不安への対応をしている。年4回「和み(なごみ)」を発行して、利用者の各種行事や日常生活の様子を家族に報告している。家族の訪問時や運営推進会議でも、家族の意見・提案を傾聴して、ホームの運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議では意見を言いやすい雰囲気作り心がけ、現場主導で行えるよう意識している	職員会議を開催して意見・提案を聞く機会を設けている。日常的にも、OJTや定期的な話し合いの場を設けて、管理者と職員の意思疎通を図っている。自己評価表があり、年3回は管理者との話し合いを行い、職員の動機づけをして、スキルアップを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれに役割分担を行うとともに、権限の委譲も行い、やりがいのある職場作りを行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ベテラン職員がリーダーとなつての職場内研修を定期的実施し、職員意識啓発に努めている。(自らが、向上心を持って自発的に学習に取り組む事により成果が得られることを踏まえ、研修では、向上心をはぐむ事を大事にしたいと考える)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	羽曳野市のグループホームの集まりに参加して、関係事業者のノウハウも取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントにおいては、ご本人と取り巻く環境の過去と現在を伺い、本人理解に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後もいつでも面会に来られるよう対応し、また、来られない場合は様子を伝える努力を行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	マッチングに関しては職員の意見交換を活発に行い、カンファレンスも行う		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者は、人生の大先輩との認識は必ず徹底し、いろいろ教えていただいている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も支援者としてご本人に向きあい、共にQOLの向上をめざす		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面接は1度ではなく、事業所に来ていただくことと、家庭に赴き、生活の様子を伺うことは最低限行っている	アセスメント表により利用者の生活歴や家族からの情報を収集して、親しい友人、老人会の仲間等の訪問や馴染みの店での買い物、お墓参り、近隣の散歩等での、従来からの生活の継続性を確保した支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の「人間関係」構築を大切に考え、職員も「環境」として意識し関わっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後は疎遠になりがちだが、相談等に応じている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の一部導入により、ご利用者の過去から現在・未来を把握し、ご利用者本位に努めている	アセスメント・フェイス表、日々の関り、利用者の言動、業務日誌等により、利用者の生活歴や暮らし方の希望・意向を把握し、把握しづらい面については、家族との意思疎通を図り、利用者の自己決定を促がす対応がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の一部導入により、ご利用者の過去から現在・未来を把握し、ご利用者本位に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ADLの把握は定期的に行い、ケアプラン作成の資料としている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者の主体性を重視したアセスメントを行い、家族や、必要な関係者と話し合い介護計画を作成している	アセスメント・フェイス表、診断書、ケース記録、介護支援経過記録、業務日誌、本人、家族、職員から各種個人別ケア情報を収集して、介護計画書を作成する。見直しは、ケース記録を基に、モニタリング表で実施する。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々にケース担当を付け、重点的に状態把握を行うことと、それを会議で更に共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者やその家族等からの要望や状態変化に対しては、基本的には、入居者本位を大事にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に出かけること、地域の方を迎え入れること、両面で地域とのつながりを意識している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の受診医療機関については、本人及び家族の希望を最大限重視している。尚、施設内で入居者に健康上の異常が見られた際は、嘱託医の受診を受けている	事業母体には付属診療所が在るが、あくまでも、本人及び家族の希望を尊重して、これまでのかかりつけ医の継続を実施している。事業所の協力医療機関での受診を希望する場合には、本人及び家族の納得と同意を得て、受診をする支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護と看護の違い、得手不得手を理解したうえで、看護職とチームを組んでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力病院との連携はもちろん、各院の地域医療連携室の担当者と密に連絡を取り、情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者が重度化してきた場合は、かかりつけ医等のアドバイスを受けながら、家族の考え方を伺って、一定の方針を確認する事としている。この方針は、職員会議等を活用して全員に説明し、施設職員が共通認識の元に一体となって対応できるようにしている	重度化や終末期支援については、入所時の早い段階から、専門的な医療的治療が必要とかがかりつけ医が判断した時は、家族の意志や希望を傾聴し、家族の意思に沿える様な対応を話し合い、医療関係者や職員等で会議を行ない、方針を共有して、家族、職員、医療関係者が一体と成っての取り組みがある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修で、リスクマネジメントや、CPR訓練について取り入れており、定期的に訓練を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時を想定した避難訓練は、消防署の指導の元に、定期的実施している。又、地域の消防団との連携にも努めている。災害時の食料については、業者が運んでくる契約になっている。	年2回の避難・救出訓練を実施し、緊急時対応マニュアルを作成して、自主訓練も実施している。事業母体の施設長が自治消防団長の職にあり、地域の災害時の協力体制もある。事業所内にスプリンクラーを設置し、安心・安全を確保している。備蓄の準備もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	長い人生を社会や家族の為に尽くしてこられた方々であるとの認識を持ち、人格の尊重については最重視して個人情報の軽はずみな発言などしないよう徹底している。個人情報について関係者以外には漏れる事の無いよう徹底を図っている	接遇マニュアルを作成し、定期的に研修も実施して、職員全員が対人援助サービスの知識と技術を身につけるように取り組んでいる。人生の先輩に対して、尊厳やプライドを損ねない対応の徹底を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者のペースに合わせて生活リズムを作り、寄り添うことで本人の思いをくみ取れるよう努力している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職場の運営方針については、入居者を主役にしており、これは、介護サービス施設運営の大原則と考えている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に禁止事項は設けず、希望に沿う形を目指している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付け等は、従事できる方は、本人の自発的参加の元に、職員と共同で行っている	食事は特養の厨房で管理栄養士の下で、作り、提供される。毎月給食委員会を開催し、食彩豊かな楽しい食事提供に取り組んでいる。毎月、サンデークッキング、わくわく料理教室もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	施設の管理栄養士と連携して、それぞれの入居者の体重等も配慮しながら適正な栄養摂取や水分補給等に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	水分の十分な補給と共に、食後の口腔ケアについては義歯の隙間等も意識している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握するため、チェック表を作成し、トイレでの排泄を目指している	排泄表に時系列に記録された排泄記録を基に、排泄パターンを把握して、トイレ誘導を促がしている。あくまでも、利用者の自立を目指した、排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	可能な限りトイレに座り、排便を促し、水分補給や運動とともに取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の入浴は、週2回を基本としてローテーションを組んで実施しているが、該当日以外の日での入浴を強く希望された場合は、その希望に応じている	週2回を基本としているが、利用者の希望には柔軟に対応をしている。入浴拒否の場合には、日時変更、清拭、足浴、シャワー浴等に対応している。入浴のリラックス時に楽しい会話もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前日の睡眠状況やその時の様子で休息を促したり、温度・布団等にも気を付けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状態の変化についてはDrに都度報告し、指示を仰いでいる。薬については一覧にしてケース記録にはさみ、確認できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	こんな事がしたい という希望をもっといただけるような関わりが大切と考えている。しかし、なかなかご利用者から声は上がらず、今現在はこちらからの提案がほとんどである		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気にもよるが、散歩やアクティビティーの一環で、屋上へ出たりドライブへ出たりしている。また、散歩の希望にも、できるだけタイムリーにお答えできるよう、心掛けている	利用者の体調や身体状況を考慮して、近隣の散歩、お花見、買い物、園芸、ドライブ等の支援で、利用者が季節を感じながら、楽しみながらの外出支援に取り組んでいる。外出支援は生活リハビリと捉えて、利用者の外出の様々な工夫が考えられている。	27年度の目標の一つに、「記憶」を置き、「今までの記憶、可能な限り、思い入れのある場所に、今まで使用していた電車、バスなども使い、少しでも過去の記憶を思い出して頂く」とした、外出支援の取り組みが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内では機会もないので、外出時に支払いをしていただいている。所持については、本人・ご家族同意の上で行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	取次ぎを行い、関係性を大切にしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備はその時、その方に合わせて行っており、特に空調は、湿温計も参考にしながら効き過ぎないように配慮している	玄関入り口に居間があり、大きな、ゆったりしたソファ、大きなテレビ、オルガンもある。食堂は、採光で、明るく、一隅には、格子造りの、掘炬燵の在る畳部屋がある。広い窓からは、山の緑や富田林・羽曳野が一望できる。廊下の壁には、利用者の行事時の満面の笑みの顔写真が貼られて、心が和む。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの中でも座れる場所を多く作り、食堂や居室でも独りになれるよう支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に対する不安を和らげる事を期待してそれまでの生活で使用していた家具や生活用品については、継続して使用するよう促している。併せて、これら家具の配置についても、これまでの状況に出来るだけ近づけるように工夫している	清潔で、広い居室には、利用者の馴染みの物が持ち込まれて、従来の生活の継続性が確保された静かな環境が在る。各居室にはトイレが設置されている。ナースコール、スプリンクラーも設置して、安心・安全を確保している。居室からは、山の自然の緑や街や田園風景が一望できる好環境が在る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	可能な限り制限は設けず、ご自身で考え行動できる支援をしている。ただし、困っておられる時にはすぐに近くに寄れるよう心がけている		